

健保組合
加入事業所の
ご紹介
その⑧

田原缶詰株式会社

缶詰業界では国内唯一の自社ブランドだけの製造・販売をし、「お客様の要望に合致した、安全で安心できる食品」を経営理念とする

今回、ご紹介する田原缶詰株式会社は、関東平野の最東端に位置する銚子市にあります。温暖な気候と豊富な資源に恵まれた銚子市は「地球の丸く見えるまち」としても有名で、市で最も標高の高い愛宕山からは、悠々と流れる利根川と太平洋の大海原を望むことができます。沖の海は日本屈指の好漁場。陸は海流と風の恵みで、夏は三〇度を超えず、冬は暖かく、野菜と畜産物の産地でもあります。

私たちが取材のために市内を訪れると、自然エネルギーとして注目されている風力発電の大きな風車が目に入りました。これは、平成十三年に銚子で初めての風力発電用風車が建設されて以来、順次増設され、平成二十年十月現在、八社の運営会社によって合計二九基の風車が稼働しているそうです。



田原 義久社長

国外向け輸出から、
現在は国内向けが主に

田原缶詰(株)は昭和四年に田原缶詰工業所として創業し、主に国内向け「いわし大和煮」缶詰の製造に着手しました。現在は、製缶はしていませんが、当時は同時に容器

海近くの工場で、さば、はたて、いか、赤貝など魚介類の缶詰を製造委託しているとのこと。現在は銚子工場において、自社ブランド「ちょうした」(左写真を製造・販売しています。缶詰業界で自社ブランドだけの製造・販売は全国でも田原缶詰(株)だけだそうです。

平成十八年には品質マネジメントシステムの国際規格ISO 9001認証製造やサービスの提供といった業務プロセスの維持や改善によって、製品やサービスの質

の向上を図るためのもの)を取得しています。

社長みずから健康管理をされ、
健診はほぼ全社員が受診

田原義久社長に健康管理についてお聞きしました。九月の健診で病院に行くように担当者にいわれ、さっそく受診したそうです。唯一の趣味は五、六年前に始めた魚釣りで、日曜日には天気さえよければいつも出かけます。

釣りと聞いて、岸壁や防波堤で

■本場銚子の新鮮な海の幸の味と香りをぎっしり詰めた「ちょうした」の缶詰



田原缶詰(株)の商標「ちょうした」は、銚子を土台に考案されているそうです。中心となる「タ」はいうまでもなく田原缶詰の頭の文字。「タ」を囲むのは銚子の「銚」を「丁」に言い換えたもので、これを四つ組み合わせ「丁四」=「銚子」と読み、それに銚子の黒潮をあしらって、デザイン化したものです。

田原缶詰株式会社のホームページ

<http://www.tawara-kandume.com/>

の缶も、自社でブリキを半田付けして作り、缶詰として出荷したそうです。それ以前にはろうそく、でんぷんなども製造していました。昭和十一年からは、輸出向けにいわし油漬缶詰の生産を開始しましたが、昭和十五年からの戦時体制に伴い、農林省の指導により、千葉県合同缶詰と企業合同として国営企業となり、銚子の第七工場として生産を続け、その体制は戦後まで続いたとのこと。

昭和二十三年に再び田原缶詰工業所として再開し、昭和二十八年に田原缶詰株式会社に組織変更して現在に至っています。昭和三十年代には主力商品のさんまの蒲焼の製造を開始し、いわし・さばの缶詰とともに世界各国へ輸出し、

の釣りをイメージしましたが、実はトロリングをなさり、銚子の大会のみならず、茨城、福島の大にも出場しています。特に平成十五年には、二二・六kgのかじまぐろを釣って、銚子マリーナの新記録を樹立し、その記録は現在も破られてはいないそうです。社長の勇姿は、銚子マリーナのホームページに載っています。ぜひご覧ください。

健康保険担当の前野推進委員にもお話に加わっていただき、健保組合の重要事業として実施している健診についてお聞きしました。健診はほぼ全社員の方が受診しているそうで、今回訪問したときは、ちょうど九月に実施した健診結果による保健師の保健指導が行われたあとでした。仕事が多忙にもかかわらず、たくさんの方に保健指導を受けていただき、健康に対する関心の深さを感じることができました。

健診結果に対する保健指導は、会社を通し、担当者が該当者一人ひとりに手紙で再検査を促しているそうです。健康上の問題は個人

その売り上げは生産量の七〇%にも及んだそうです。その間、漁獲方法の向上などにより大量に魚が捕れるようになり、銚子以外にも旭市や鳥取県の境港市に工場を建設しましたが、昭和五十年に入り、為替が一ドル三六〇円から変動性になったことや発展途上国の輸入を抑える政策などにより、販売が国外向けから主に国内向けに変化してきたそうです。

平成元年には東京営業所を開設し、その後、支店に業務を拡張しました。平成十七年には福島県の郡山市に営業所を開設し、また、原産地にこだわる消費者のニーズから青森県八戸市や福岡県の有明

のことなので、どこまで会社が介入していいのかわかりませんが、何かあれば日常の作業にも個人の生活にもかかわることなので、会社としても兆候があれば積極的に管理、指導していくようにサポートしているそうです。健保組合としても、社員の病気は医療費増大につながりますので、このような保健指導はたいへん助かります。

体育関係では、有志の方がソフトボールチームをつくり地元企業と試合をしたり、全体としてはラジオ体操を毎朝行っているとのこと、それが健康の維持に役立っているのでしょう。

最後に、今後も健保組合とも積極的にコミュニケーションを図り、健康管理に役立てたいとお話しくださいました。

★ ★ ★

十二月のたいへんお忙しいなか、田原社長、前野推進委員には、取材にご協力いただきました。貴社のますますのご発展をご祈念申し上げます、今回の取材を終了させていただきます。



▲本社